

慢性腎疾患を持つ生徒の進路状況とその問題点

— 第 II 報 —

門脇純一, 星井桜子, 五十嵐千春, 安保 亘, 西 真史*,
染谷慎一*, 生内由香*, 野元哲浩*

長期の療育を受けた腎疾患を持つ生徒は卒業時点の調査で60%が進学, あるいは進学希望があり, この数値は予想以上のものであった。就職は1割弱であった。卒後のアンケート調査では前向きの姿勢で励んでいる一側面は把握されたが, 半数以上に未だに疾病に対する不安を持っているものがあつた。進学时に差別を感じたものは無かつたのに対し, 就職時には3割が差別を感じていた。勤務状況はパートタイムが2割, 超過勤務までしてるものが8割の回答であつた。

慢性腎疾患, 進路, 就職状況

はじめに

国立療養所西札幌病院には病弱施設の山の手養護学校が併設され, 治療と教育(療育)が同時に行われている。現在の山の手養護学校は昭和38年に, 高等部は昭和44年に開設された。

長期の療育を受け, 腎疾患を持つ生徒が卒業後どのような進路をとり, どのような状況にあるかを知ることは私ども医師にとつても, 社会的にも大変重要なことであると考えたので今回の調査を企画した。

対象・方法

昭和63年度までに山の手養護学校を卒業し, 腎疾患を持った生徒を対象とした。進路分析は卒業時点にて, 卒後の生活状況調査はアンケートにより, 平成元年10月に行われた。

成績

昭和63年度までに山の手養護学校高等部を卒業した生徒総数は245名で, うち85名が腎疾患(全体の34.7%)を

持つ生徒であつた。腎疾患の病種分類では, ネフローゼ症候群(ネ症)が圧倒的に多く約62%, 慢性腎不全15%, 慢性腎炎11%, その他となつていた。腎疾患を持つ生徒のうち在学中に1名, 卒後に1名何れも慢性腎不全の生徒が死亡している。卒業した腎臓病生徒の60%は進学, あるいは進学希望(浪人中)であり, 就職は1割弱, 自宅で家事, 療養中は1割強, 未定が2割弱であつた(表1-4)。

4年制入学の大学生は1名を除き, 全て文科系でほとんどが居住地の大学を選択し入学した。各種学校は臨床検査技士養成所が最も多く, 内部障害者更生指導所, 経理事務養成所などこれに次ぎ多いものであつた。この種の学校, 養成所は東京に多いことから選択場所は東京が多かつた。

卒後の現状把握, その他の目的でアンケート調査を行ったが回収率は非常に低く12%となつた。回答を寄せてくれた生徒の病種はネ症が半数, 慢性腎不全が4割, その他であつた。

国立療養所西札幌病院小児科, 札幌市立山の手養護学校*

Jun-ichi Kadowaki, Sakurako Hoshii, Chiharu Igarashi, Wataru Abo,
Masashi Nishi, Shin-ichi Someya, Yuka Ikenai, Tetsuhiro Nomoto
Nishi-Sapporo National Hospital, Sapporo Yamanote School for
the Health impaired

表1 高等部卒業生の進路状況
腎臓病 - 進学

	大学・短大	各種学校	職業訓練校	その他	計
腎臓病	20	14	9	8	51 (60%)
全体	61	34	27	9	131 (53%)

表2 就職

	公務員	一般企業職			その他	計
	公共企業体	事務系	労務計	サービス		
腎臓病	1	3	1	1	2	8 (9.4%)
全体	3	10	2	4	4	23 (9.4%)

表3 施設

	更生施設	授産施設	療護施設	その他	計
腎臓病	0	0	0	0	0
全体	5	3	0	0	8 (3.3%)

表4 自宅 - 継続療養

	自宅		継続療養	計
	家事	療養		
腎臓病	2	7	2	11 (12.9%)
全体	5	23	19	47 (19.2%)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



長期の療育を受けた腎疾患を持つ生徒は卒業時点の調査で 60%が進学,あるいは進学希望があり,この数値は予想以上のものであった。就職は 1 割弱であった。卒後のアンケート調査では前向きな姿勢で励んでいる一側面は捉えられたが,半数以上に未だに疾病に対する不安を持っているものがあつた。進学時に差別を感じたものは無かつたのに対し,就職時には 3 割が差別を感じていた。勤務状況はパートタイムが 2 割,超過勤務までしてるものが 8 割の回答であつた。